

地域医療支援病院業務報告書

令和6年 9月 19日

愛知県知事殿

開設者 住 所 東京都文京区湯島1丁目5-28

〔法人の場合は、主たる〕
〔事務所の所在地〕

氏 名 公益社団法人日本海員掖済会

〔法人の場合は、名称及〕 会長
〔び代表者の職・氏名〕

下記のとおり、令和5年度の業務に関して報告します。

記

1 病院の名称等

名 称	名古屋掖済会病院					
所 在 地	愛知県名古屋市中川区松年町4丁目66番地					
診 療 科 名	内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、血液内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、脳神経内科、腫瘍内科、外科、消化器外科、乳腺外科、呼吸器外科、心臓血管外科、肛門外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、精神科、リウマチ科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、病理診断科、救急科、麻酔科、緩和ケア内科、歯科、歯科口腔外科					
病 床 数	精 神	感 染 症	結 核	療 養	一 般	合 計
					602	602

2 施設の構造設備

施 設 名	設 備 概 要
集 中 治 療 室	（主な設備）人工呼吸器、経皮的心肺補助装置、心拍出量測定装置、湿潤器、大動脈バルーンポンピング装置、輸液シリンジポンプ、ベッドサイドモニタ、中心静脈留置型経皮体温調整装置（2011）、超音波診断装置、低圧持続吸引器、体外式ペースメーカー、除細動器など 病床数 8 床
化 学 検 査 室	（主な設備）生化学自動分析装置、免疫測定装置、ドライケム生化学分析装置、血液ガス分析装置、血球測定装置
細 菌 検 査 室	（主な設備）自動同定感受性検査装置、血液培養検査装置、安全キャビネット、孵卵器、蛍光顕微鏡、拡散抽出増幅検査装置
病 理 検 査 室	（主な設備）自動包理器、自動封入器、免疫染色装置、マイクローム、顕微鏡、換気装置

病理解剖室	(主な設備) 遺体冷蔵庫、写真撮影装置、解剖台
研究室	(主な設備) ディスカッション顕微鏡
講義室	室数 7 収容定員 450 人
図書室	室数 2 蔵書数 2871 冊程度
救急用又は患者搬送用自動車	(主な設備) 患者搬送用自動車 保有台数 1 台
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床面積 259.79 m ² [共用室の場合] 薬品管理室と共用

備考1 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

2 規則第9条の2第1項各号に掲げる事項を記載した書類を添付すること。

紹介患者に対する医療提供及び他の病院又は診療所に対する患者紹介の実績

1 算定期間 2023年 4月 1日 ~ 2024年 3月 31日

2 紹介率 73.9%

紹介患者の数 (A)	初診患者の数 (B)	紹介率 (A/B×100)
14,337人	19,384人	73.9%

3 逆紹介率 94.8%

逆紹介患者の数 (C)	初診患者の数 (B)	逆紹介率 (C/B×100)
18,394人	19,384人	94.8%

※1 各人数については、前年度の延べ人数を記入すること。

※2 紹介率及び逆紹介率は、小数点以下第1位まで記入すること。

※3 紹介率が80%以上であることを承認の要件とする場合で、紹介率が65%以上80%未満の病院にあっては、今後、2年間で紹介率を80%以上とするための具体的な年次計画を明らかにする書類を添付すること。

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

共同利用の実績
(地域の医療従事者による診療、研究又は研修のための利用)

1 共同利用の実績

※1 前年度の共同利用を行った医療機関の延べ機関数、これらの医療機関のうち申請者と直接関係のない医療機関の延べ機関数、共同利用に係る病床の病床利用率等を記入すること。

共同利用を行った医療機関の延べ機関数：2,132機関（直接関係のない医療機関の延べ数：2,132機関）

共同の利用内訳（連携検査：2,122機関、開放型病床：10件、施設利用：0件）

共同利用に係る病床の利用率：8.4%、延日数：154日）

2 共同利用の範囲等

※2 病院の建物の全部若しくは一部、設備、器械又は器具のうち、共同利用の対象としたものを記入すること。

医療連携室・図書室・開放型病床

研修室（会議室1・会議室2・会費室3・会議室4・会議室5・会議室6・会議室7・会議室10・会議室11）

CT・MRI・シンチグラム・超音波検査（心臓・腹部・甲状腺・頸動脈）・ホルター心電図・脳波・神経伝導速度・胃カメラ・上部消化管造影・大腸造影・PET-CT・骨密度検査

共同利用に関する規程	有 ・ 無	
利用医師等登録制度の担当者	氏 名	
	職 種	医師

※3 共同利用に関する規程がある場合には、当該規程の写しを添付すること。

4 登録医療機関の名簿

医療機関名	開設者名	住 所	主たる診療科	申請者との経営上の関係
別紙②-1-6①②参照				

※4 申請に係る病院と同一の2次医療圏に所在する医療機関についてのみ記入すること。

5 常時共同利用可能な病床数 5 床

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

救急医療提供の実績

1 重症救急患者の受入れに対応できる医療従事者の確保状況

No.	職 種	氏 名	勤 務 の 態 様	勤 務 時 間	備 考				
	別紙3-1		<table border="1"> <tr> <td>常勤</td> <td>専従</td> </tr> <tr> <td>非常勤</td> <td>非専従</td> </tr> </table>	常勤	専従	非常勤	非専従		
常勤	専従								
非常勤	非専従								

2 重症救急患者のための病床の確保状況

優先的に使用できる病床	名称（ 集中治療室 ）22床
専用病床	名称（ 救命救急室 ）34床

※ 一般病床以外の病床を含む場合は、病床区分ごとに記入すること。

3 重症救急患者に必要な検査又は治療を行うために必要な診療施設の概要

施 設 名	床 面 積	設 備 概 要	24時間使用の可否
救命救急センター (初療室)	1914.25㎡	(主な設備) 処置室 (小手術室含む) CT撮影室、血管撮影室、一般撮影室、内視鏡室	可
救命救急センター (救命救急室)	1609.52㎡	(主な設備) 病棟	可
集中治療室	1100.95㎡	(主な設備) 病棟	可
	㎡	(主な設備)	

4 救急医療の提供の実績

救急用又は患者搬送用の自動車により搬入した救急患者の延べ数	10,801人 (4,478人)
上記以外の救急患者の延べ数	26,554人 (2,888人)
合計	37,355人 (7,366人)

※ () 内には、それぞれの患者数のうち入院を要した患者数を記載すること。

5 保有する救急用又は患者搬送用の自動車の出動回数

0 回

6 備考

救急病院の認定告示 令和5年3月3日（認定機関：令和5年2月1日～令和8年1月31日）
救急救命センターの指定年月日 昭和53年5月23日

※特定の診療科において、重症救急患者の受入れ体制を確保する場合は、その旨を記入すること。

既に、「救急病院等を定める省令」（昭和39年厚生省令第8号）に基づき知事の救急病院の認定を受けている病院及び「救急医療対策の整備事業について」（昭和52年7月6日付け医発第692号厚生省医務局長通知）に基づき救急医療を実施している病院にあっては、その旨を記入すること。

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修の実績

1 研修の内容

2 研修の実績

(1) 地域の医療従事者への実施回数	34回
(2) (1) の合計研修者数	652人

※ 研修には、当該病院以外の地域の医療従事者が含まれるものを記入すること。

(2) には、前年度の研修生の実数を記入すること。

3 研修の体制

(1) 研修プログラムの有無 ・無

(2) 研修委員会の有無 ・無

(3) 研修指導者

氏名	職種	診療科	役職等	臨床経験年数	備考
	医師	血液内科	副院長	35年	
	医師	血液内科	部長	30年	
	医師	血液内科	部長	27年	
	医師	腎臓内科	部長	24年	
	医師	腎臓内科	部長	15年	
	医師	糖尿病内分泌内科	部長	23年	
	医師	精神科	部長	42年	
	医師	脳神経内科	名誉顧問	58年	
	医師	脳神経内科	部長	26年	
	医師	脳神経内科	部長	25年	
	医師	脳神経内科	部長	24年	
	医師	呼吸器内科	副院長	38年	
	医師	呼吸器内科	部長	23年	
	医師	呼吸器内科	部長	17年	
	医師	呼吸器内科	部長	17年	

	医師	呼吸器内科	部長	16年	
	医師	消化器内科	部長	28年	
	医師	消化器内科	部長	25年	
	医師	消化器内科	部長	17年	
	医師	消化器内科	部長	15年	
	医師	循環器内科	部長	26年	
	医師	循環器内科	部長	23年	
	医師	循環器内科	部長	18年	
	医師	循環器内科	部長	16年	
	医師	循環器内科	医長	14年	
	医師	膠原病リウマチ内科	部長	16年	
	医師	小児科	副院長	30年	研修責任者
	医師	小児科	部長	26年	
	医師	小児科	部長	23年	
	医師	小児科	部長	16年	
	医師	外科	部長	35年	
	医師	外科	副院長	26年	
	医師	外科	部長	19年	
	医師	外科	部長	18年	
	医師	整形外科・手外科	部長	25年	
	医師	整形外科・手外科	部長	21年	
	医師	整形外科・手外科	部長	20年	
	医師	整形外科・手外科	部長	17年	
	医師	整形外科・手外科	部長	17年	
	医師	整形外科・手外科	部長	16年	
	医師	形成外科	医長	11年	
	医師	脳神経外科	部長	28年	
	医師	心臓血管外科	部長	23年	
	医師	心臓血管外科	部長	19年	
	医師	皮膚科	部長	43年	
	医師	泌尿器科	医員	9年	
	医師	産婦人科	部長	24年	
	医師	産婦人科	部長	16年	
	医師	眼科	医長	10年	

	医師	耳鼻咽喉科	部長	16年	
	医師	麻酔科	部長	21年	
	医師	麻酔科	部長	17年	
	医師	麻酔科	部長	13年	
	医師	麻酔科	医長	13年	
	医師	麻酔科	医長	12年	
	医師	病理診断科	部長	22年	
	医師	中央検査部・輸血	名誉院長	45年	
	医師	救急科	院長	40年	
	医師	救急科	救命救急センター 一長	15年	
	医師	救急科	医長	11年	
	医師	救急科	医長	10年	
	医師	救急科	医員	8年	
	医師	救急科	医員	8年	
	医師	緩和ケア内科	部長	27年	
	医師	放射線科	部長	41年	
	医師	放射線科	医長	11年	
	医師	健康管理科	部長	32年	
	医師	リハビリテーション 科	部長	48年	
	医師	歯科口腔外科	部長	27年	
	看護師	看護部	副院長兼看護部長	39年	
	薬剤師	薬剤部	薬剤部長	28年	
	診療放射線技師	中央放射線部	技師長	36年	
	臨床検査技師	中央検査部	技師長	31年	
	理学療法士	リハビリテーション部	技師長	44年	
	臨床工学技士	臨床工学部	技師長	27年	

※ 研修責任者については、備考欄にその旨を記入すること。

4 研修実施のための施設及び設備の概要

施設名	床面積	設備概要
講堂	321.4㎡	(主な設備) 液晶ディスプレイ、ミーティングボード、演題、送出映像モニター、書面カメラ、マイク、舞台用音響、システムスクリーン、机、椅子、パソコン、プロジェクター
会議室1・2	76.2㎡	(主な設備) ホワイトボード、シャーカステン、パソコン、プロジェクター、アンプ、マイク、液晶ディスプレイ、スクリーン、机、椅子
会議室3	38.0㎡	(主な設備) 液晶ディスプレイ、ホワイトボード、机、椅子
会議室4	38.0㎡	(主な設備) 液晶ディスプレイ、ホワイトボード、机、椅子
会議室5	52.83㎡	(主な設備) 机、椅子、マイク、アンプ
会議室6	38.76㎡	(主な設備) 机、椅子、シャーカステン、スクリーン
会議室7	77.79㎡	(主な設備) 机、椅子、マイク、パソコン、スピーカー、ホワイトボード、スクリーン、プロジェクター
会議室10	124.16㎡	(主な設備) 机、椅子、マイク、パソコン、スピーカー、ホワイトボード、スクリーン、プロジェクター
会議室11	18.88㎡	(主な設備) 机、椅子、パソコン
図書室	76.93㎡	(主な設備) 書架、閲覧テーブル、パソコン(医学文献検索用)、机、椅子

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法

1 管理責任者等

	氏 名	職 種	役 職 等
管 理 責 任 者 の 氏名、職種、役職等		事務	事務部長
管 理 担 当 者 の 氏名、職種、役職等		看護師	副院長兼看護部長
		薬剤師	薬剤部長
		事務	情報管理センター長
		事務	庶務課長
		事務	救命センター管理課長
		事務	第二医事課長
		事務	医療連携室長

2 諸記録の保管場所及び分類方法

	保 管 場 所	分 類 方 法
診療に関する諸記録 [病院日誌、各科診療日誌、処方せん、 手術記録、看護記録、検査所見記録、 エックス線写真、紹介状、退院した患 者に係る入院期間中の診療経過の要約]	庶務課 病棟、外来、 薬剤部、情報 管理センタ 一、病歴管理 課、医療連携 室	日誌は日付順 診療記録は電子カルテ X線写真は1年単位でID順 紹介状は1年単位で日付順
病院の管理及び運 営に関する諸記録	共同利用の実績	医療連携室
	救急医療の提供の実績	救命救急セン ター
	地域の医療従事者の資質の向上を図る ための研修の実績	医療連携室
	閲覧の実績	第二医事課
	紹介患者に対する医療提供及び他の病 院又は診療所に対する患者紹介の実績 の数を明らかにする帳簿	医療連携室

※ 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法
及び閲覧の実績

閲覧責任者	氏名	職種	役職等		
		事務	事務部長		
閲覧担当者	氏名	職種	役職等		
		事務	病歴管理課長補佐		
		事務	庶務課長		
閲覧場所	診療録に関する諸記録は、病歴管理課・病棟 ※エキサイネット（インターネット）を用いて院外からの閲覧可能				
総閲覧件数	医師	歯科医師	地方公共団体	その他	合計
	14,441				14,441
閲覧手続の概要	<p><閲覧申請の方法> 当院の運営するエキサイネット利用規約に規定するように、利用申請書により登録手続きによって、訪問による接続作業を実施します。当院登録医であることが条件となります。</p> <p><閲覧に関わるセキュリティ状況> 登録医療機関から閲覧する際には、SSL-VPN装置がエキサイネット情報をSSLで暗号化し、不正侵入やウイルス感染を未然に防止します</p> <p><費用負担> 費用負担は無料です</p>				

医療法施行規則第9条の19第1項に規定する委員会の開催の実績

1 委員会の開催回数 4回

2 委員会における議事の概要

※委員会の開催回数及び議論の概要については、前年度のものを記載すること。

※別紙7-2-1、7-2-2①、7-2-2②参照

		看護師	小児救急認定看護師
		看護師	
		看護師	
		看護師	
		准看護師	
患者相談件数	24,402件		

患者相談の概要

転院・退院支援	12,764	件
入院支援	5,484	件
受診・受療	508	件
経済的問題	1,800	件
家族への支援	1,732	件
社会復帰支援	121	件
がんの治療・療養生活	1,159	件
セカンドオピニオン	33	件
がん治療における治療費等、社会保障制度等	416	件
がんの告知立ち会い、精神的支援等	215	件
その他	170	件
		件

※ 患者相談の概要については、相談内容を適切に分類し記載するとともに、相談に基づき講じた対策等があれば併せて記載すること。また、個人が同定されないよう配慮すること。

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

居宅等における医療の提供の推進に関する支援の状況

居宅等医療提供施設等における連携の緊密化のための支援等の実績

訪問看護師・介護支援専門員・障害者相談支援専門員交流会下記の通り3回開催した。

テーマ：地域で支える二次性骨折予防 ～薬剤管理について～

内 容：講 演「急性期病院から地域まで継続的な治療を行う為の支援と連携方法について」
事例検討「骨粗鬆症患者を地域でどう支えていくか」

開催日時：令和5年11月22日15時～16時30分 参加者：39名（院内18名、院外21名）

令和5年12月6日15時～16時30分 参加者：48名（院内23名、院外25名）

令和5年12月18日15時～16時30分 参加者：36名（院内17名、院外19名）

医療を受ける者又は地域の医療提供施設に対する情報の提供の実績

①ケアマネとのカンファレンス 349件

②訪問看護事業所とのカンファレンス 219件

③訪問診療医療機関とのカンファレンス 36件

入院時の状態及び退院後の生活を見据えて医療や介護に必要なサマリーの提供

その他居宅等における医療の提供の推進に関し必要な支援の実績

当院では入院患者が自宅等へ退院する際に医療的ケアが途切れないよう退院前カンファレンスをできる限り開催し、地域の医療機関・介護福祉機関と連携を図ってきた。患者の効率的な退院支援や感染防止対策の観点から『えきさいWEBケアミーティング』を活用し、当院と訪問診療医療機関・訪問看護ステーション等をつなぎ、退院前カンファレンスを実施。シームレスな退院調整を進めている

WEBカンファレンス 604件

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

その他地域医療支援病院に求められる取組みの状況

1 連携体制を確保するための専用の室、担当者

専 用 の 室 の 名 称	地域医療支援センター		
担 当 者	氏 名	職 種	役 職 等
		医師	副院長兼地域医療支援センター長
		事務	医療連携室長
		医療ソーシャルワーカー	医療相談室長
		看護師	看護師長

2 病院の機能に関する第三者による評価

評 価 を 行 っ た 機 関 名	公益社団法人 日本医療機能評価機構
評 価 を 受 け た 時 期	2021年2月19日～2026年2月18日

※ 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

3 退院調整部門の取組

退院調整部門の実績	
退院調整患者数	8,297件
ケアマネとの調整	349件
地域との共同指導	236件

4 地域連携を促進するための取組みの実績

策定した地域連携クリティカルパスの種類・内容
大腿骨頸部骨折地域連携クリニカルパス実施件数106件（名古屋整形外科地域連携パス拡大合同会議公認パス使用）
脳卒中地域連携クリニカルパス199件（名古屋脳卒中地域連携パス拡大合同会議公認パス使用）
前立腺がん地域連携クリニカルパス15件（愛知県がん診療連携協議会公認パス使用）
乳がん地域連携クリニカルパス2件（愛知県がん診療連携協議会公認パス使用）

地域連携クリティカルパスを普及させるための取組み

名古屋整形外科地域連携パス拡大合同会議・名古屋脳卒中地域連携パス拡大合同会議にて講演会を開催し、多くの医療機関が大腿骨頸部骨折地域連携パス・脳卒中地域連携パスに参画していただけるよう情報発信している。またパスシートのデータ分析を行い、今後新規で地域連携パスに適用する患者の情報提供につなげている

5 病院が果たしている役割に関する情報発信の実績

情報発信の方法

- ①病診連携NEWS
- ②医療連携ガイドブック
- ③広報誌（COMPASS／エキサイだより）
- ④エキサイ健康教室
- ⑤名古屋掖済会病院ホームページ
- ⑥エキサイネットTOPページ

内容等の概要

①病診連携NEWS

医師紹介や診療科紹介、講演会、研修会のお知らせ、休日や検査機器の制限などを紙面にまとめ連携医療機関へ発送し、周知を図る。令和5年度11回発行

②医療連携ガイドブック

当院の診療科の紹介と、担当する医師の顔写真を掲載したガイドブックを1回／年作成し、連携医療機関へ発送。患者紹介の際に活用いただいている。

③広報誌（COMPASS／エキサイだより）

当院の診療科・医師・病院機能などの紹介を掲載し、周知を図っている。

④エキサイ健康教室を下記のテーマで動画配信や参集型勉強会を開催した。

- ・令和5年4月 演題：どうして病名が分かるのか？糖尿病の最前線（動画配信）

講師：糖尿病内分泌内科 氏

- ・令和5年6月26日14時～15時

演題：あなたはいくつ飲んでいますか？「ポリファーマシー」っていう言葉、ご存じですか？

（地域住民 54名参加）

講師：薬剤部 氏

- ・令和5年8月21日14時～15時

演題：健口を考える オーラルフレイルって何？（地域住民50名参加）

講師：歯科口腔外科 氏

- ・令和5年10月2日14時～15時

演題：目指せ！！元気で100歳（地域住民193名参加）

講師：リハビリテーション部 氏

- ・令和6年1月10日14時～15時

演題：そうだったのか！爪水虫のなおし方

講師：皮膚科 氏

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。